

シラバス参照

授業科目名	形態機能学
単位数	2
授業形態	演習
講義コード	5024
授業担当者氏名	平田浩三(ヒラタ コウゾウ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	1.人体の形態と機能に関する基本的事項を理解できる。(DP1DP3) 2.看護師として将来遭遇するであろう看護プロブレムを念頭に、学習した内容を、説明、判断、応用することができるようになる。(DP3・DP6)																								
授業概要	人体の構造と身体各部の機能、また病気の際に形態および機能に変化を与えるメカニズムについて学び、「疾病治療論」に運動する基礎的知識を得る。なお、本科目は、人体を構成する細胞と組織、人体各部位の構造と機能について、形態を扱う解剖学的な視点と機能を扱う生理学的な視点から学習する。																								
教育課程内の位置づけ	看護学科 専門教育科目 専門基礎科目 身体の構造 1年 必修																								
授業におけるアクティブな特徴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>該当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B:課題解決型(PBL)連携なし</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>C:討議(ディスカッション、ディベート等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>D:グループワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E:プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>F:実習、フィールドワーク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>I:反転授業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>J:外国語のみで行われる授業</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特徴	該当	A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり		B:課題解決型(PBL)連携なし	○	C:討議(ディスカッション、ディベート等)	○	D:グループワーク		E:プレゼンテーション		F:実習、フィールドワーク		G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	○	H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)		I:反転授業		J:外国語のみで行われる授業			
	特徴	該当																							
	A:課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり																								
	B:課題解決型(PBL)連携なし	○																							
	C:討議(ディスカッション、ディベート等)	○																							
	D:グループワーク																								
	E:プレゼンテーション																								
	F:実習、フィールドワーク																								
	G:双方向授業(ICT活用なし:対話型、リアクションペーパー等)	○																							
	H:双方向授業(ICT活用あり:クリッカー、manaba等)																								
I:反転授業																									
J:外国語のみで行われる授業																									
授業計画	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション(シラバス、授業の進め方、復習テスト等)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教科書① 生きるとはどういうことか、個体を外界から区別するもの、皮膚、内部環境の恒常性、生命維持と生活活動</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>復習テスト1、教科書②による補足</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>教科書① 恒常性維持のための物質の流通:血液、血管、リンパ管、脾臓、心臓と血圧</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>復習テスト2、教科書②による補足</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>教科書① 恒常性維持のための調節機構:神経性調節、液性調節、ストレス</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>復習テスト3、教科書②による補足</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>教科書① 動く(動作のメカニズム):姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮、反射、随意運動</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>復習テスト4、教科書②による補足</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>教科書① 動く(動作のメカニズム):骨格、骨格筋、関節、日常生活での基本的動作</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>復習テスト5、教科書②による補足</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>教科書① 食べる:食欲、嚥下、消化吸収</td> </tr> </tbody> </table>	第1回	オリエンテーション(シラバス、授業の進め方、復習テスト等)	第2回	教科書① 生きるとはどういうことか、個体を外界から区別するもの、皮膚、内部環境の恒常性、生命維持と生活活動	第3回	復習テスト1、教科書②による補足	第4回	教科書① 恒常性維持のための物質の流通:血液、血管、リンパ管、脾臓、心臓と血圧	第5回	復習テスト2、教科書②による補足	第6回	教科書① 恒常性維持のための調節機構:神経性調節、液性調節、ストレス	第7回	復習テスト3、教科書②による補足	第8回	教科書① 動く(動作のメカニズム):姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮、反射、随意運動	第9回	復習テスト4、教科書②による補足	第10回	教科書① 動く(動作のメカニズム):骨格、骨格筋、関節、日常生活での基本的動作	第11回	復習テスト5、教科書②による補足	第12回	教科書① 食べる:食欲、嚥下、消化吸収
第1回	オリエンテーション(シラバス、授業の進め方、復習テスト等)																								
第2回	教科書① 生きるとはどういうことか、個体を外界から区別するもの、皮膚、内部環境の恒常性、生命維持と生活活動																								
第3回	復習テスト1、教科書②による補足																								
第4回	教科書① 恒常性維持のための物質の流通:血液、血管、リンパ管、脾臓、心臓と血圧																								
第5回	復習テスト2、教科書②による補足																								
第6回	教科書① 恒常性維持のための調節機構:神経性調節、液性調節、ストレス																								
第7回	復習テスト3、教科書②による補足																								
第8回	教科書① 動く(動作のメカニズム):姿勢、神経から筋への指令と筋の収縮、反射、随意運動																								
第9回	復習テスト4、教科書②による補足																								
第10回	教科書① 動く(動作のメカニズム):骨格、骨格筋、関節、日常生活での基本的動作																								
第11回	復習テスト5、教科書②による補足																								
第12回	教科書① 食べる:食欲、嚥下、消化吸収																								

	第13回	復習テスト6、教科書②による補足
	第14回	教科書① 息をする:呼吸器の構造、呼吸のメカニズム、ガス交換
	第15回	復習テスト7、教科書②による補足
	第16回	教科書① 排泄:排尿、排便
	第17回	復習テスト8、教科書②による補足
	第18回	教科書① 会話: 発声、聴覚、言語中枢
	第19回	復習テスト9、教科書②による補足
	第20回	教科書① 睡眠:睡眠とは、サーカディアンリズム、脳波、睡眠の主観的評価
	第21回	復習テスト10、教科書②による補足
	第22回	教科書① 入浴:入浴とは、皮膚、粘膜、温感、冷感
	第23回	復習テスト11、教科書②による補足
	第24回	教科書① 出産:男性生殖器、精子、遺伝情報、女性生殖器、原始卵胞、卵胞の成熟、性交、射精、ホルモン周期
	第25回	復習テスト12、教科書②による補足
	第26回	教科書① 出産:成熟卵胞、排卵、受精、着床、三胚葉、胎児、胎盤、分娩・出産、オキシトシン、出生時標準体格
	第27回	復習テスト13、教科書②による補足
	第28回	教科書① 外部環境と体(人類誕生時と現在の比較):目覚めていること、食、睡眠、筋肉、地球環境 全体を通じて:質疑・確認・意見交換、教員の対応・補足説明
授業外学修 予習(事前学修)	各授業 100分	授業前に、教科書を一読して、疑問点を明らかにしておくこと。
授業外学修 復習(事後学修)	各授業 100分	確認テストの内容を中心に教科書①を復習する。また補足事項を教科書②で確認し復習する。
評価方法	平常点(30%)、定期試験の成績(70%)	
教科書等	教科書①:「看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 菱沼典子著」第4版 日本看護協会 教科書②:「系統看護学講座・専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 坂井建雄、岡田隆夫著」第10版 医学書院	
課題に対する フィードバック の方法	復習テストは、記憶の定着のため教科書①と授業内容を自ら復習することで正答を見つける。教科書やスライドにない問題に関しては、授業において解説する。	
その他	100分間の予習と100分間の講義、そして100分間の復習があって、2単位の学修が成立する。医学・看護の授業では記憶しなければならない項目が多い。記憶を確実にするために、講義を受けた後その内容を必ず1W以内に復習しよう(大脳生理学上、短期記憶を長期記憶にして定着させるためには1週間以内の反復が重要だと言われている)。十分な予習で不明点をみつけ講義で質問し理解に基づいて学修内容を記憶する、その後は記憶した内容を1週間以内に復習することで短期記憶を長期記憶にする。そのために、日頃から授業外学修のための時間を確保しよう(試験前の一夜漬けでは記憶は定着しない、結局は知識は失われる。一夜漬けは時間の無駄である)。	
授業担当者の 実務経験の有無	実務経験あり	
授業担当者の 実務経験の内容	診療経験 30年以上、研究歴30年以上の教員(医師)が、その知識と経験をもとに双方向授業を行う。	
ファイル		